

第2期教育等の振興に関する施策の大綱

期間：令和2年度～令和5年度（4年間）

基本目標の測定指標の状況（令和4年5月末）

「知」の目標の状況

「徳」の目標の状況

「体」の目標の状況

掲載したデータは、令和4年5月末時点でのデータです。

平成23年度は東日本大震災、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、全国的な調査が行われなかったため、その結果は除いています。

測定指標

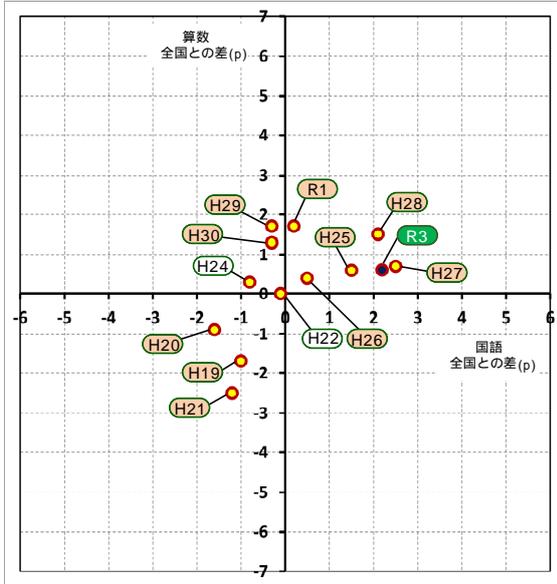


小学校の学力は全国上位を維持し、さらに上位を目指す
中学校の学力は全国平均以上に引き上げる

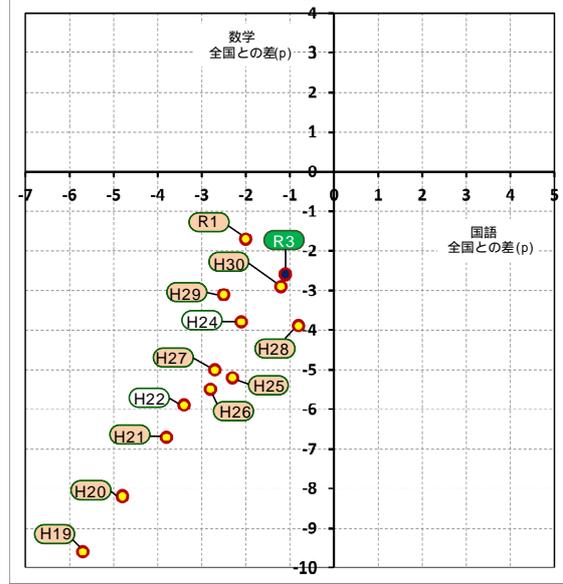
全国学力・学習状況調査結果 (H19～R3年度)

本県と全国の平均正答率の差

小学校 (第6学年)

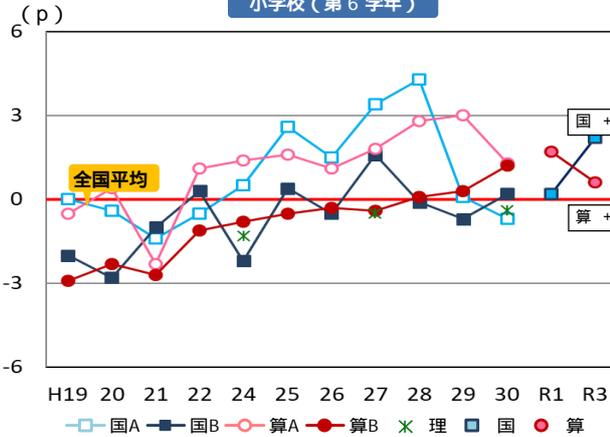


中学校 (第3学年)

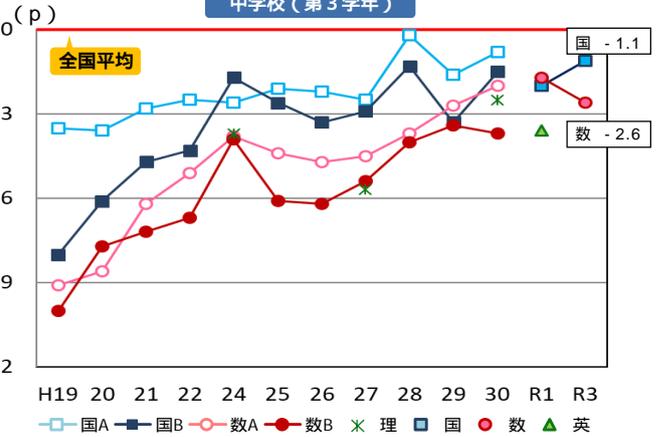


本県と全国の平均正答率の差 (教科、問題別)

小学校 (第6学年)



中学校 (第3学年)



平成 22・24 年度は抽出調査、平成 23 年度は東日本大震災の影響により、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により全国調査未実施
令和元年度からは、A 問題 (主として「知識」に関する問題) と B 問題 (主として「活用」に関する問題) を一体的に問う調査に変更

小学校の国語は、県の平均正答率が 66.9%で、全国平均を +2.2 ポイント上回っています。全国との差は、R 1 年度より 2.0 ポイント向上しました。(R1: +0.2p R3: +2.2p)
算数は、県の平均正答率が 70.8%で、全国を +0.6 ポイント上回っています。全国との差は、R 1 年度より 1.1 ポイント低下しました。(R1: +1.7p R3: +0.6p)
中学校の国語は、県の平均正答率が 63.5%で、全国平均との差が -1.1 ポイントとなっています。全国との差は 0.9 ポイント縮まりました。(R1: -2.0p R3: -1.1p)
数学は、県の平均正答率が 54.6%で、全国との差が -2.6 ポイントとなっています。全国との差は -0.9 ポイント広がりました。(R1: -1.7p R3: -2.6p)
小・中学校の学力の状況を本県と全国の平均正答率の差 (教科、問題別) でみると、R 1 年度より国語が大きく改善し、算数・数学は若干低下したものの、全国学力・学習状況調査が始まった平成 19 年度以降、改善傾向が続いています。

測定指標



小・中学校ともに、全ての評価の観点で正答率を全国平均以上とする

全国学力・学習状況調査結果 (R1, R3年度)

小学校 (第6学年)

評価の観点		R1年度
国語	国語への関心・意欲・態度	60.4 (+2.8)
	話す・聞く能力	73.2 (+0.9)
	書く能力	55.6 (+1.1)
	読む能力	82.3 (+0.6)
	言語についての知識・理解・技能	52.5 (-1.0)
算数	数学的な考え方	63.1 (+0.9)
	数量や図形についての技能	76.3 (+2.7)
	数量や図形についての知識・理解	72.5 (+2.4)

評価の観点		R3年度
国語	知識・技能	73.9 (+5.6)
	思考・判断・表現	61.6 (-0.5)
算数	知識・技能	74.8 (+0.7)
	思考・判断・表現	65.7 (+0.6)

()は全国平均正答率との差

中学校 (第3学年)

評価の観点		R1年度	R3年度
国語	国語への関心・意欲・態度	74.9 (-1.6)	56.8 (+0.8)
	話す・聞く能力	69.1 (-1.1)	79.3 (-0.5)
	書く能力	81.5 (-1.1)	56.9 (-0.2)
	読む能力	70.2 (-2.0)	47.9 (-0.6)
	言語についての知識・理解・技能	63.4 (-4.3)	72.4 (-2.7)
数学	数学的な見方や考え方	51.1 (+0.1)	38.5 (-2.6)
	数学的な技能	58.5 (-5.4)	74.0 (-3.7)
	数量や図形などについての知識・理解	69.1 (-2.2)	63.6 (-2.0)

()は全国平均正答率との差

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により全国調査未実施
令和3年度の小学校の評価の観点は、「知識・技能」と「思考・判断・表現」に変更

評価の観点から分析すると、小学校の国語は、「思考・判断・表現」が全国平均を下回っています。一方、小学校の算数は、全評価の観点が全国平均を上回っています。全体に伸びがあった国語の力には偏りがみられますが、算数はバランス良く力がついてきていることがうかがえます。

中学校は、国語の「関心・意欲・態度」以外の観点は全て全国平均を下回っています。しかしながら、「数学的な見方や考え方」以外はR1年度と比べて改善がみられます。

コロナ禍においても各学校、各教職員が「チーム学校」として組織的に授業改善に取り組んできた成果と児童生徒の努力がこうした結果に表れています。

R3年度の調査結果を踏まえ、引き続き組織的な授業改善に取り組むとともに、デジタル技術を活用しながら、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを着実に進めることにより、学力の定着と向上を図っていきます。

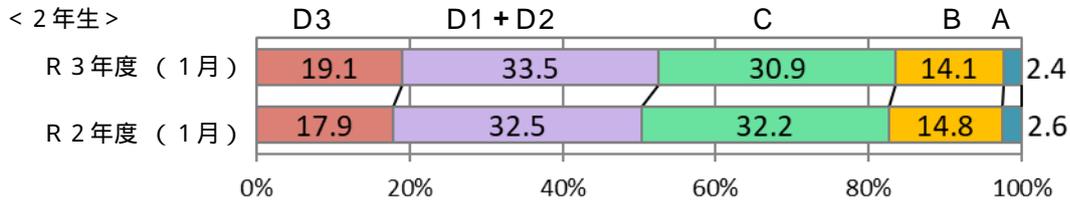
測定指標



高校2年生の1月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を10%以下とする

学力定着把握検査結果

2年生1月の3教科総合の結果



数値は学力定着把握検査 (29校)の結果 (その他7校では別検査を実施) 評価尺度である学習到達ゾーンの内容は下表のとおり

学力定着把握検査 の評価尺度

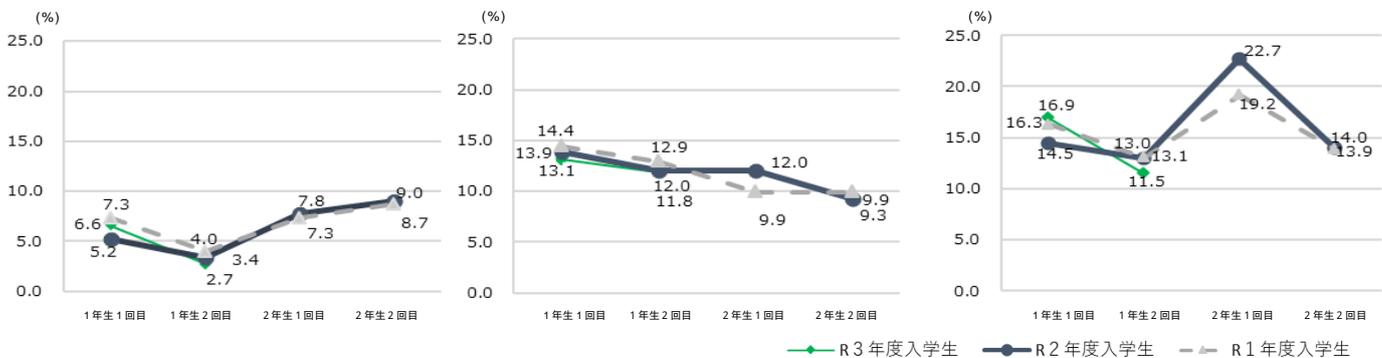
学習到達ゾーン	進路選択肢	
	進学	就職
A	国立大合格レベル	上場企業などの大手の就職筆記試験や公務員試験に対応できるレベル
B	公立大学等合格レベル	就職筆記試験における平均的評価レベル
C	私大・短大・専門学校一般入試に対応可能なレベル	就職試験で必要な最低限のラインはクリアしているが、仕事をするうえで支障が出ることが多い (D1・D2)
D	上級学校に進学することはできるが、授業についていけず、苦勞する学生が多い	筆記試験が課される企業では不合格になることが多い (D3)

教科別にみたD3層の占める割合の推移

【国語】

【数学】

【英語】



県高等学校課調査 (国の「高校生のための学びの基礎診断」の認定を受けた測定ツールを活用)

令和3年度2年生2回目 (1月)の検査結果では、D3層が19.1%となっており、前年度より増加しました。

令和2年度入学生は、1年生2回目 (11月)の検査結果ではD3層が減少していましたが、2年生1回目 (6月)でD3層が増加しました。1年生から2年生への進級時期における既習内容の定着に向けた取組が十分でなかったことが要因の1つとして考えられます。同時に、生徒が学びに向かう意欲を高めることのできる授業への改善が求められます。

今回の検査結果を踏まえ、学校支援チームの教科訪問で、学習内容の定着が図れるような復習教材の活用の仕方を検証するなど、既習内容の定着に向けた各教科の取組への支援を行っていきます。また、ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組が進められるよう、高校の学習内容がより深まる2年生という時期への支援の充実を図っていきます。

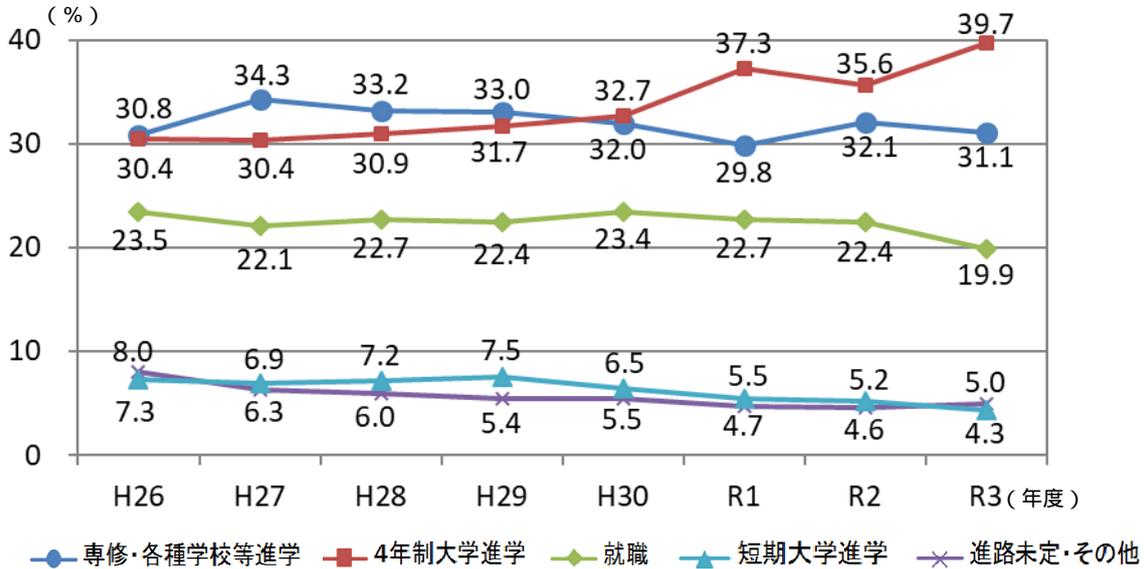
学校組織として授業改善をさらに進められるよう、管理職の学校経営力の強化に向けた支援の充実も図っていきます。

測定指標



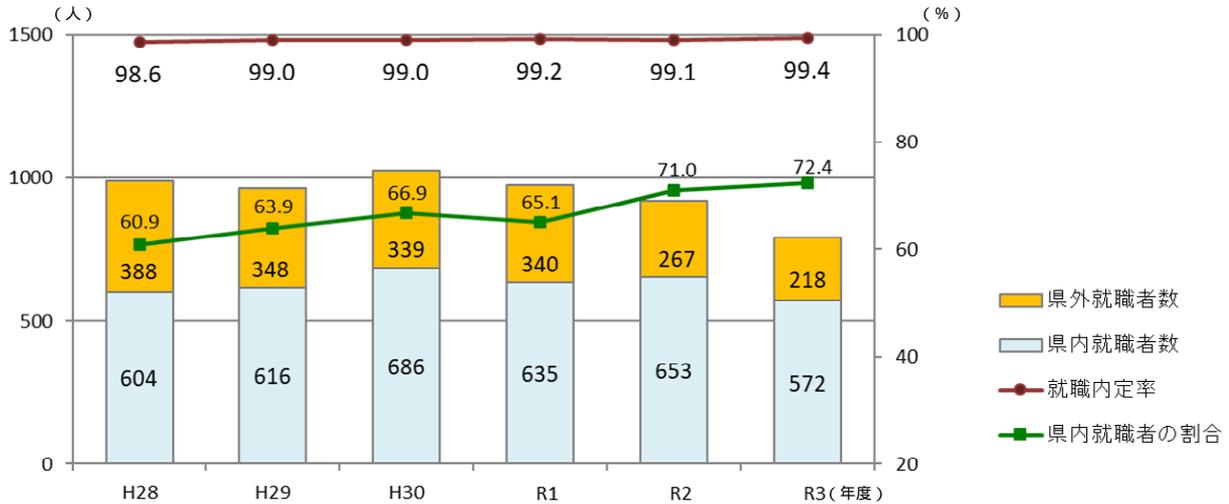
高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下とする

公立高等学校卒業者（全日・定時・通信制）の進路状況（県高等学校課調査）



就職率・進学率は、公立高校卒業生全体に占める割合
進路未定には、具体的な進学・就職先が未定の生徒、パート・アルバイト等の生徒も含む

公立高等学校卒業者（全日・定時制）の就職の状況（県高等学校課調査）



公立高等学校卒業者の進路の状況について、進路未定で卒業する生徒の割合は減少傾向にありますが、令和3年度は前年度の4.6%から5.0%へと、やや増加しています。引き続き早い段階から、進路実現のための取組を強化していきます。

4年制大学の進学者の割合は、着実に増加しており、令和3年度は39.7%となりました。今後も、学校における進学に向けた情報提供の強化と生徒の情報収集能力を高める取組を進めていくとともに、生徒一人一人に応じたきめ細かな指導の充実を図ってまいります。

就職内定率が着実に改善してきたことにあわせ、県内就職者の割合は引き続き増加傾向にあり、令和3年度は72.4%となっています。今後も、生徒が地場産業や企業についての理解を深め、地場産業のニーズに対応できる知識や技術を習得できるよう取組を進めます。

測定指標



児童生徒質問紙調査における道徳性等（自尊感情、夢や志、思いやり、規範意識、公共の精神など）に関する項目の肯定的回答の割合を向上させる

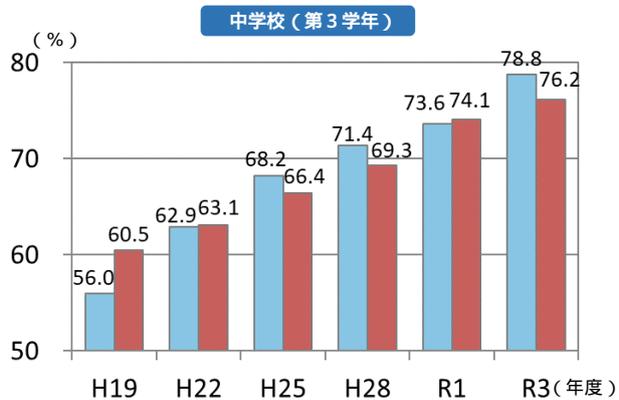
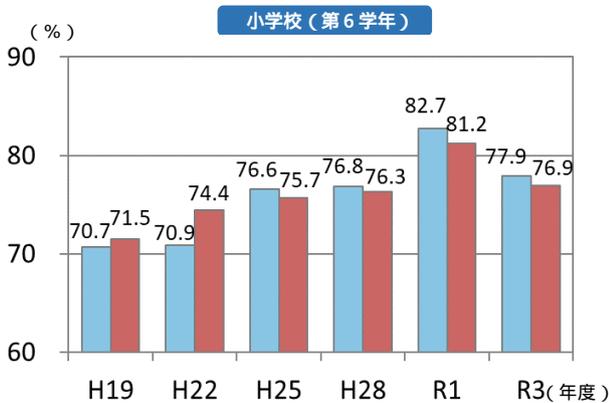
全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査結果抜粋 (H19,22,25,28,R1,3年度)

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、全国調査未実施

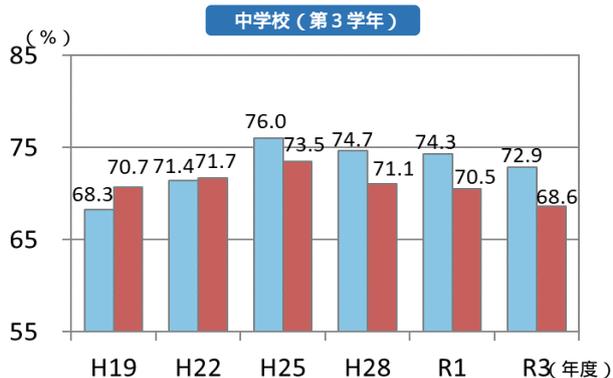
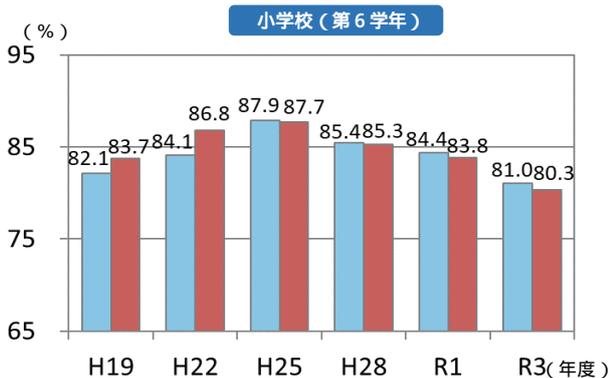
各質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合(%)

自分にはよいところがある

■高知県 ■全国

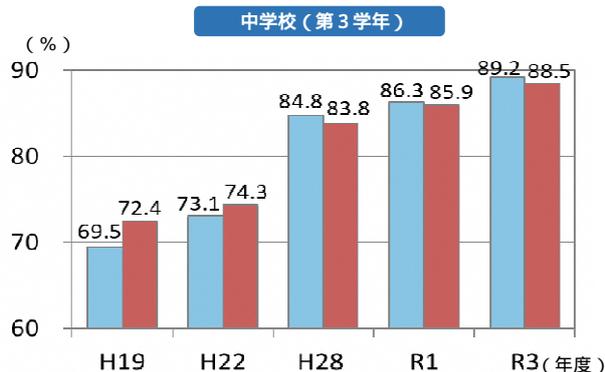
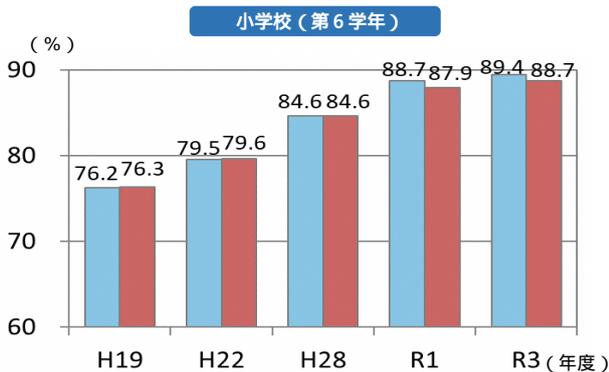


将来の夢や目標を持っている



人が困っているときは、進んで助けている

H25は質問項目なし



小学校において、自尊感情に関する質問の肯定的回答の割合は全国より高いものの、R1年度より減少しています。また、夢や志に関する質問についても、小学校・中学校ともに肯定的回答の割合が全国を上回るものの、R3年度は減少しました。全国的に肯定的回答の割合の減少傾向がみられており、コロナ禍で学校行事が減るなど様々な活動が制約され、自分のよさを自覚したり認められたりする機会が少なくなっていることが影響していると考えられます。

今後も、児童生徒の道徳性を高めるために、学校、家庭、地域が一体となって道徳教育を進めるとともに、子どもが将来の夢や目標を早期に認識できるよう、多様なロールモデルやキャリア・パスポートの効果的な活用事例などを提示し、キャリア教育を強化していきます。

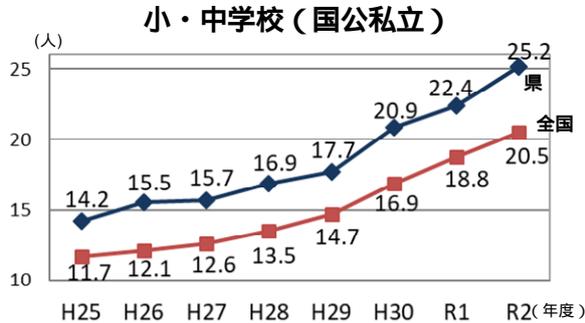
測定指標



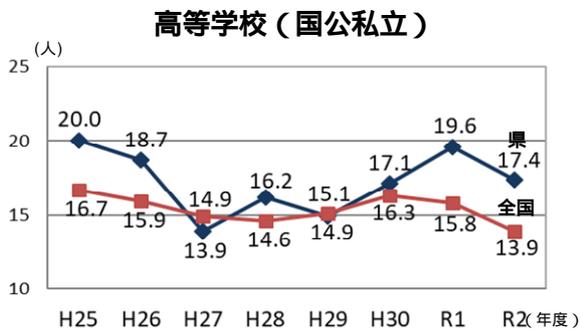
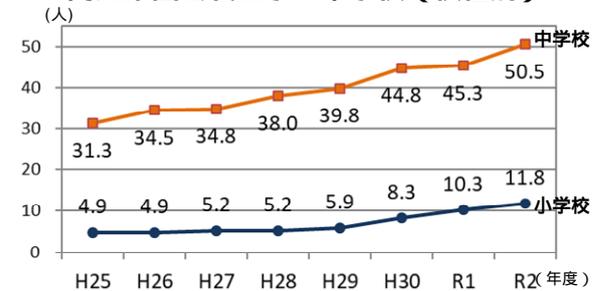
生徒指導上の諸課題（不登校、中途退学）の状況を全国平均まで改善させる

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題に関する調査結果 (H25～R2年度)

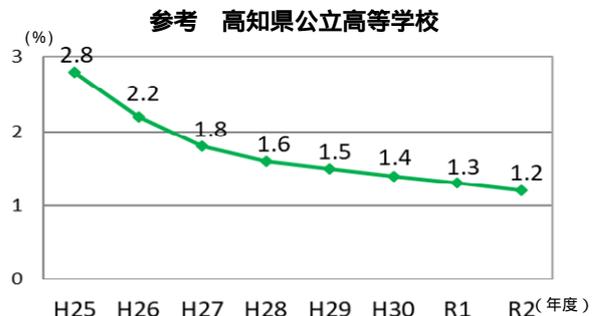
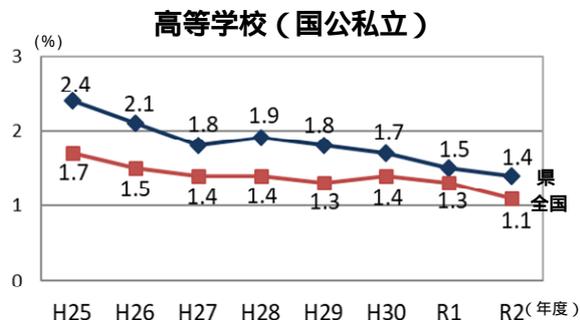
不登校 数値は1,000人あたりの不登校児童生徒数



高知県国公立小・中学校（校種別）

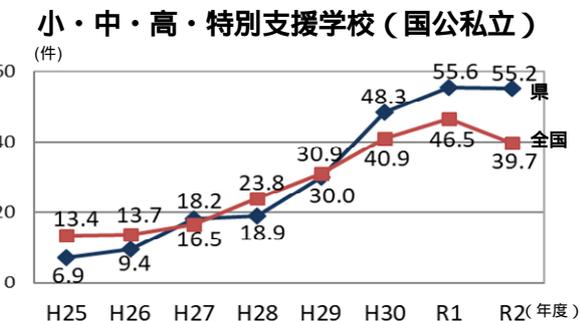


中途退学

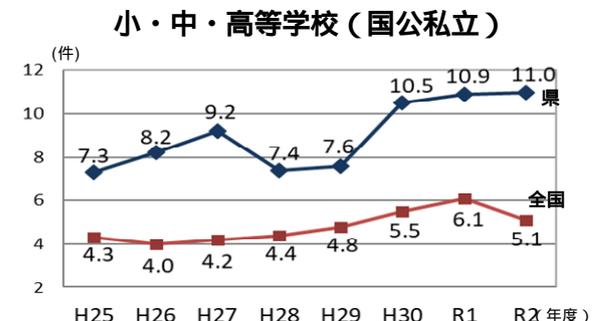


参考

いじめ 数値は1,000人あたりの認知件数



暴力行為 数値は1,000人あたりの発生件数



小・中学校における1,000人あたりの不登校児童生徒数は、県、全国ともに増加し、県においては特に中学校での大幅な増加がみられています。今後は、小中連携による不登校の未然防止の取組や、全ての教職員が不登校への認識・対応力を高められるよう取組を強化していきます。

高等学校における1,000人あたりの不登校生徒数は減少し、中途退学率についても、年々減少傾向にあります。今後も、各学校の課題改善に向けた取組を進めていきます。

測定指標



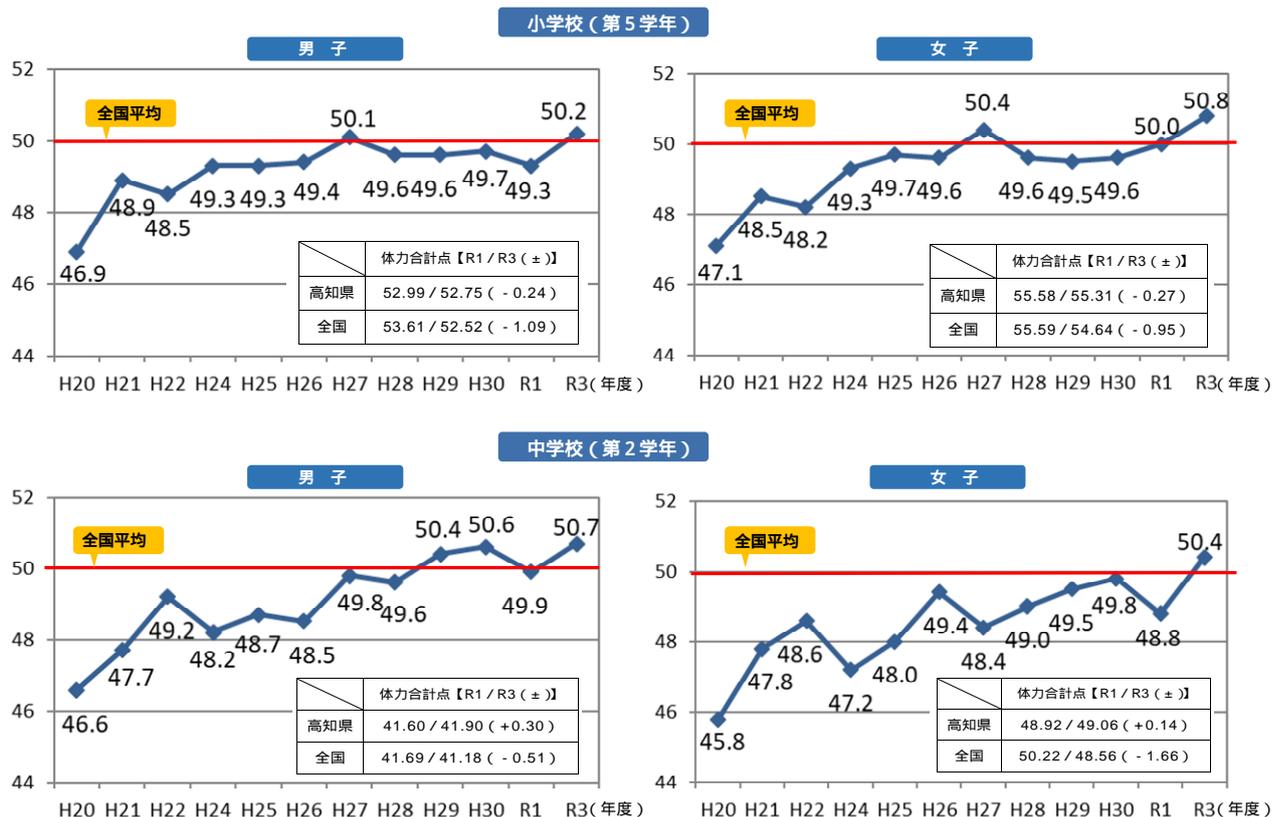
全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、

- ・小・中学校の体力合計点は継続的に全国平均を上回る
- ・総合評価でDE群の児童生徒の割合を過去4年間の平均値から3ポイント以上減少させる

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果 (H20~R3年度)

体力合計点(8種目の実技の総合点)の推移

平成23年度は東日本大震災の影響により、R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により全国調査未実施
 数値 表: 体力合計点 グラフ: T得点(全国平均=50)



総合評価でDE群の児童生徒の割合 県結果の比較 (H28~R1年度の平均値、R3年度)

小5	H28~R1 過去4年間の平均値	R3
男子	31.5%	35.8% (+4.3)
女子	24.4%	24.9% (+0.5)

中2	H28~R1 過去4年間の平均値	R3
男子	28.6%	29.8% (+1.2)
女子	14.2%	15.4% (+1.2)

()の数値は、県の過去4年間の平均値との差

R3年度の本県の体力合計点は、R1年度に比べて小学校は男女ともにやや下回り、中学校は男女ともにやや上回りました。全国の体力合計点が小・中学校の男女ともに低下している中ではありますが、調査開始以降初めて、小・中学校の男女ともに全国平均を上回りました。新型コロナウイルス感染症の影響が心配されましたが、全体としては、全国のような大きな影響はみられませんでした。これは、コロナ禍にあっても各学校において授業改善や体力向上のための工夫した取組が行われた結果であると考えられます。

DE群の児童生徒の割合は、過去4年間(H28~R1)の平均値と比べると、小・中学校いずれも男女ともに増加しています。

今後も、児童生徒の体力、運動能力向上のために、小・中学校9年間を見通した体力・運動能力向上のためのプログラム等を活用し、各学校の課題改善に向けた取組を進めていきます。